

令和 6 年 11 月 11 日 開 会

令和 6 年度第 8 回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和6年度 第8回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出	席	者
令和6年11月11日（月）	教 育 長	坂 元 裕 人	教育総務課長 草 野 浩 一
午後1時58分	教育委員	明 石 浩 久	学校教育課長 川 崎 史 明
↓			
午後4時24分	教育委員	葛 迫 幸 平	社会教育課長 大 山 昭
第2研修室	教育委員	田之上 厚美	教育総務課主事 前 田 有 希
	教育委員	福 里 由 加	

会 議 要 旨

1 開 会

定刻前ではあるが、定足数に達しており、令和6年度第8回教育委員会定例会を開会した。

議案第17号及び第18号並びにその他について、非公開で説明する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 令和6年度第7回定例会会議録の承認について

令和6年度第7回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議 事

報告第28号 垂水市教育委員会教育長職務代理者の指名について

議案第17号 令和6年度社会教育功労者の決定について

議案第18号 垂水市教育支援委員会答申について

4 その他

(1) 第4期垂水市教育振興基本計画（素案）及びパブリックコメントの実施について

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
報告第28号 垂水市教育委員会 教育長職務代理者の 指名について	地方教育行政の組織及び運営 に関する法律第13条第2項の規 定に基づき、教育長の指名によ り、教育長職務代理者を指名し たことについて報告するもの。		
議案第 17 号 令和 6 年度社会教 育功労者の決定につ いて	垂水市社会教育関係表彰規程 第5条に基づく被表彰者を決定 するため、垂水市教育委員会 の行政組織等に関する規則第11 条第11号の規定により、会議の議 決を求めるもの。	特記事項なし	決定
議案第 18 号 垂水市教育支援委 員会答申について	垂水市教育支援委員会規則第 2条第2項に基づき審議した結 果が、別紙答申書により答申さ れたため、会議に付するもの。		承認

議 事 内 容 等

3 議 事	
教育総務課長	報告第 28 号 垂水市教育委員会教育長職務代理者の指名について (資料に沿って説明)
社会教育課長	議案第 17 号 令和 6 年度社会教育功労者の決定について (非公開) (決定)
学校教育課長	議案第 18 号 垂水市教育支援委員会答申について (非公開) (承認)
4 その他	
教育総務課長 教育総務課主事	第 4 期垂水市教育振興基本計画（素案）及びパブリックコメントの実施について (非公開) (同意)
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。 葛迫委員 まず、牛根小学校、柊原小学校の学校訪問で感じたことをお話します。 牛根小学校は、児童数の11名という、ごく小規模校の学校ですけれども、一人一人の児童、子供たちをよく把握しているなという感じが伺えました。 学力向上についても、一人一人の子供たちへの教育の向上の具体策であったり、指導方法などがよくわかるように取り組んでいるなと思いました。 また、生徒指導や保健指導についても、一人一人の児童に寄り添っていて、小規模校ですので先生と子供たちの近い関係が感じられました。 柊原小学校については、児童数の推移ですけれども、令和10年度を境に児童数が30名を下回るという傾向にあるようです。

福里委員	この問題については、市全体で考え注視しながら子供たちの教育の場を考えていかなければならないと思っています。 生徒指導や保健指導、特に保健指導については、多くの取り組みがなされ、柗原小学校の子供たち全員が、強い体を作ろうと、そして学力向上に繋げていこうという考えがヒシヒシと伝わってきました。 次は、文化祭についてです。 垂水市の文化祭は、11月の2日・3日の両日にあったのですが、3日の午後から舞台部門を観賞しました。 この日は文化の日、祭日ということもあり、多くの地区で催しがありました。 垂水の「秋の産業祭」は、賑わいを少し欠けた感じはありましたけれども、文化祭の方は、展示部門、舞台部門ともに大きな歓声が上がっていました。 特に、阿世知社中お茶会は、賑やかさにあふれ、朝一番でしたけれども、先生の大きな声が響き渡っていました。まだまだ垂水文化祭のお茶会の催しをやっていった欲しいと思うところです。 先生の子供たちへの所作の教育というものをちゃんとしていってくれる。そのことを感じる一コマだったと思います。 舞台会場では、肝属地区の広域交流として輝北町文化協会も参加され、そして、たるみずよさこい、藤間流、津軽三味線、垂水小学校の金管バンド、新城太鼓と続き、賑やかな文化祭だったと思います。 食の文化、ダンスや舞踊、音楽、美術、書、俳句といった文化の祭典が垂水市民の心や体を豊かにしてくれる、そんな一日だったと思います。以上です。 10月21日に開催された市町村教育委員連絡協議会の研修会に参加させていただきました。 2つのコマがあって、1つ目は「鹿児島市の教育DXの実現に向けて」について、2つ目は「鹿児島市の文化財の保存と活用」についてでした。 1つ目の「教育DXの実現に向けて」の講話ですが、垂水市でいろいろと聞いて勉強させてもらっているの、私でも聞いたことある言葉がたくさん出てきたことから、「やっぱり垂水の取組はすごいんだな」と感じました。 講話を聞いた後、後ろの人たちから「鹿児島市は進んでいるね」みたいなことを話されていましたが、垂水はもっと何年も前から取り組んでいるので、「やっぱり垂水ってすごいんだな」と思って何かすごくうれしかったです。 鹿児島市はこれを行っているんですよみたいなことも言われましたが、垂水の子供たちは、タイピングであったり、何年も前から取り組んでおり、垂水は、すごくいい取組をしてくださっているんだなと思って、すごくありがたかったです。 この間の土曜日は、垂水中央中の合唱祭と垂水小学校の持久走大会が一緒の日がありました。 子供は、文化部長として文化祭や合唱祭に参加させてもらいました。1年間生徒会活動をしてきて、担当の先生が厳しく指導してくださる方なの
-------------	---

	で、子供なりにすごく成長したのではないかなと感じました。 中学生も1つの行事に向けて準備や練習をし、本番を向える。それこそ子供たちのクラスは朝練もあつたりとかするぐらい頑張っていて、そういう1つの行事に向けて頑張ることはすごくいいなと改めて感じ、中央中の子供たちはすごいなと感じました。以上です。
教育長	子供の成長がうれしかったというのを聞きましたけれども、1つのそういう行事に向けて、子供たちが頑張る姿は、やっぱりいいです。 それでまた成長していくのだと思います。 持久走大会はどうでしたか。
福里委員	昨日でした。垂水小学校は、ここ2年かぶってきています。兄弟関係を考えたら、保護者はほとんどの人がかぶるのじゃないでしょうか。 中央中の役員会のときに、「昼から合唱祭ができないのですか」とお願いしたのですが、「なかなか難しい」と校長先生から言われました。 自分はタイミングよくどっちも観れたのでよかったのですが、かぶる人はかぶってしまい、どちらかが観れない状況だったと思います。
教育長	学校教育課長、来年度の日程調整は今からでしょうから、ちょっと配慮ができないか検討するようお願いしてみてください。
学校教育課長	わかりました。
田之上委員	ちょっと、お2人のと重なる部分もありますけれども、まず市町村教育委員会連絡協議会研修会に私も出席しました。 先ほどあったとおり、2点についての研修講話がありました。 まず、「鹿児島市の教育DXの実現に向けて」の講話では、やはり本市でも進めていることと重なる部分がある中で、学校数の多い都市部の取組として、ネットワークの監視システムや、遠隔での操作支援などが進められていました。 教育のDX化は、これからの社会の中で生きていく子供たちにとって必要なのだろうなと改めて思いました。 今まで学校では、底上げに重きが置かれているように私は感じてきましたが、GIGAの推進によって進め方が選択できるようになり、一步一步進みたい子、少し早めに進める子、駆け足でも進むことができる子など、AIドリルなどの導入によって可能になってきているようです。 DX化の推進によっては、さらに選択肢は広がっていくことが想像できますが、やはり一步一步進む子への支援は、大切にしていって欲しいと改めて思います。 もう1点の「文化財の保存と活用について」の講話についてです。 大変興味深いお話でした。 文化財と指定されているものは、災害などで傷んだものの復旧などで扱いの難しさもあるようです。保存し、伝えていくことは、とても大切なことですが、保存するだけでなく、出前授業の開催事例などを伺い、地域や学校など社会の中で活用されていくことが大切だと思いました。

教育長	本市でも島津墓地などありますが、今後、有効に活用されていくといいなと思います。 市の文化祭は、少し短い時間ではありましたが、参観をしました。ロビーにところ狭しと日頃の学びの成果が展示されていました。 多くの市民の方が熱心に鑑賞されているようでした。 書道の展示では、文化協会の会員の方が、「この頃は、若い世代の方も多く学んでくださる」と嬉しそうに話しておられました。 舞台では、若草文学賞のグランプリ作品の朗読が行われていました。その場面にちょうどおり、聞いておりましたが、堂々としたしっかりした態度でした。 また、県民週間は学校運営協議会もあり、垂水小学校と垂水中央中の参観をしました。 両校とも大変落ち着いて授業に取り組んでいるようでした。 クラスによって、いろいろな形で授業をされていて、楽しく参観することができました。 協議会の会議では、学校経営説明と学校の状況についての説明がありました。先ほどの教育振興基本計画（素案）の子供たちのアンケートの結果を見ながら、学校でも保護者アンケートの結果が返ってこなく、回収率が非常に悪いということを苦慮しておられました。 回収ができるともっといろいろな意見が挙がってきて、これからの改善策に繋がっていくのかなと先ほどのアンケート結果を見ながら思うところでした。 最後に、教育委員会の方から今後の学校のあり方についての説明があり、今回の協議会が終わりました。以上です。 文化財は、私も興味深く聞かせてもらいましたが、鹿児島大学の先生でしたか忘れられない言葉があります。 その言葉というのは、「当然、モノは朽ちていくわけで、文化財だって風化していく、例えば、お長屋の石に何かの材料を中に入れて、その上からコーティングする修復をしたが、これも実は善し悪しなんです」とおっしゃるわけです。 「えっどういう意味ですか」と尋ねましたら、「物はどんどん削れて、またそこに深みが出てくるんです。そして、最後はもちろん壊れるとか、なくなるとか、そういうのがあって当然なんです」ということをおっしゃるわけです。 「その期間内でどれだけのことを要するに伝えるか、それが勝負なんだ」みたいなことをおっしゃったことが、鮮明に残っていて、「そうなんだ、保存なんだけど、保存も永久保存ではないんだ」という考え方です。 「どちらかというと、特に外にあるモノ、そういう文化財なるものは、どんどんどんどん雨、風に打たれて朽ちていく、そしてある面仕方がないことだが、ただ期間が長ければ長いほど、いろんな人に知ってもらえる機会があるので、それはそれで、その期間を大事にしながら有効に利活用して欲しい」というようなことをおっしゃったのは、すごく心に残っています。ありがとうございます。
------------	---

明石委員	10月15日から教育委員としての仕事をさせていただくことになりました。改めまして、よろしくお願いいたします。 私の方は、10月19日に文化会館で開催されました垂水高校の文化祭を参観いたしました。 私が垂水中央中学校に勤務していたときもそうでしたけれども、照明、音響、映像など、そういう舞台の設備とか、ゆったりとした観客席及び駐車場、あのような会場で学校行事が行えるというのは、本当に生徒にとっても、保護者にとっても幸せなことだなと改めて思うことでした。 ロビーには展示作品があって、保育玩具とか、絵画書道など学習の成果がよく現れていました。 また舞台発表では、非常に生徒の緊張感も伝わってきましたし、でも、なんか観ている人に楽しんでもらおうという、そんな思いも伝わってきて、なんかうれしい思いがいたしました。 やっぱり中央中のときもそうでしたけれども、一番感心するというか、興味があるのは、子供たちの聴く態度です。観賞態度が本当に素晴らしかったなと思いました。 もう静かだというのはもちろんなのですが、拍手とか、手拍子とか、舞台からの問いかけに答える子供たちの姿も真面目な感じがして、非常にその温かい雰囲気というか、そういったものを感じました。 再任用で鹿屋の中学校に行ったときに、3年生の女の子でしたけれども、集団に入れない子で、しかし非常に誠実でやさしい子でしたが、毎日別室で個別に職員が交代で授業して、最終的に進路を少人数の高校にということで、南大隅高校と垂水高校のどちらかということで、それとなく私は垂水高校をいていたのですけれども、最終的には南大隅高校を選びまして進学しました。保護者も「もうこの子のためなら」と南大隅に転居されて、逆に保護者が鹿屋へ仕事に通うそういう生活をしました。 このときにやっぱり思ったのが、中学生の垂水高校に対するイメージというのが、現状とはちょっとかけ離れているというか、そういうのがやっぱりあるなというふうに思って、ちょっと残念な思いがいたしました。 離れていると、本当のことはなかなか見えないのだなということも感じまして、本当の垂水高校の姿というか、そういったものが何か伝わる方法がないのかなというのを感じたところでした。 もう1点は、10月21日に市民スポーツフェスティバルに参加しました。葛迫委員、福里委員ご夫妻と一緒に、グラウンドゴルフを楽しみました。綺麗な芝生の上で、いろんな汗をかきました。 私事ですが、健康のために早朝、垂水中央運動公園を歩き始めるようになって半年ぐらいになります。 この間、たるみずスポーツランドの芝生の手入れをしてくださっている方々と挨拶とか会話を交わすようになりました。 夏休みとかの暑い時期は、もう朝5時過ぎには大型スプリンクラーが、3台フル稼働してプラスお2人は消防の太いホースで水をたっぷり撒いてくださいますし、広いグラウンドで膝をつきながら、ずっと草取りを何袋もしてくださって、あの姿がやっぱりあるのだなというのを感じました。 見えないところで本当に頑張ってください。「ありがとうございます」というと「仕事じゃつでな」とおっしゃる。
------	---

教育長

それはそうなんですけれども、この方々がいてくださって、この芝生の状態が保たれている、夏場、特にサッカーで、やっぱり傷んだりするのが、だんだんだんだんこう芽が伸びてきて、繋がって行って芝が元に戻っていく姿を見ながら、大変ありがたいなと思うことでした。

普段歩いているとペットボトルのごみとか、カードゲームのカードの袋とかがいっぱい散らかっていたりして、「おや」と思うこともありますが、それもすぐ片付けられていますし、台風10号の後も大小の枝葉が本当散乱していましたが、すぐ綺麗にしてくださっていて、ありがたいなと思います。

学校もそうですけど、ゴミを放っておくと、ますます散らかっていきますし、綺麗に整備しておく、ゴミを落とす子もいませんし、中にはゴミを拾う子も出てきます。綺麗にしていると、子供たちもやっぱりゴミが見えるのだなというのを感じることでした。

朝は、年齢の高い方々ばかりなのなんですけれども、黙々と走ってらっしゃる方、毎朝ご夫婦と一緒に歩いてらっしゃる方、ご不自由な体を杖で支えながらゆっくり歩いてらっしゃる方、市役所の職員の方々もしっかり歩いたりしてらっしゃる姿を見かけたりします。

いろんな方々と挨拶が交わせるのがとってもうれしくて「おはようございます。今朝も早いですね」なんて言われて「もう年寄りですから」と言いながら、歩いているのですけれども、そういう垂水で、こうやって本当に生活するようになって嬉しいなと思っています。

運動公園の綺麗な環境を保ってくださっている関係課の職員の方々、そして、また作業にあたってくださいている皆様にお礼をお伝えしたいと思います。ありがとうございます。

ありがとうございました。

本当にいろんなイベントごとも含めて、あるいは思いも重ねて報告いただきました。

私の方からは、まず、垂水市民スポーツフェスティバルです。

冷や汗やら、違う汗をかいたというふうに明石委員からの報告がありましたけれども、教育委員会チーム、本当ありがとうございました。

今年度から新たな試みということで、体育館の中では綱引きフェスティバル、外ではグラウンドゴルフ、そして大勢の方に見守られて子供会の発表ということで、これを社会教育課長の発案で仕組んでくださったのです。

1日どっぷりスポーツデーと、午後から無料開放というところで自由に使ってくださいということだったのですけれども、たるみずスポーツランドはあまり使っていなかったみたいで、事前の告知の仕方にもよるかもしれません。午前中はこういうイベントやって、午後からはフリーで使えますよということを告知しておけば、私はすごくいい1日だったなと思っています。子供たちの発表も多くの方々に聞いてもらってよかったのかなと思っています。

また、外国の方々もいらっしゃってすごく賑わって、そういう意味ではよかったのかなと思っています。

ぜひ来年は、教育委員会チームのリベンジをよろしくお願いします。

2点目は、垂水高校に行ってみりまして三者協議というところで、垂水中央中、教育委員会、そして垂水高校と、主に2点、100周年記念事業を今後どう進めていくかということと、どうしても大きな大きな課題であるところの生徒増について、先ほど明石委員からもありましたけれども、どうすれば身近な行きたくなる学校になるのかというところです。

教育総務課は非常によく動いてくれています。

そういう意味では、まさに高校がやるべきこと、あるいはそれ以上のことを実際やってもらっています。「教育委員会の職員の方々がそこまでされるのですか」と言われるぐらいです。

中学校に行くと、校長、教頭、あるいは進路担当の方から、「ここまで出てきてくださって、本当に大変ですね」と逆にねぎらいの言葉をもらいます。課長も鹿児島、鹿屋、桜島各方面を廻りましたけれども、現状において厳しいです。

先ほど出たように垂水高校の頑張っている姿だとか、あるいは魅力だとか、頑張れば大学に行けるとか、ひょっとすると垂水市役所に合格するかもというのが、うまく伝わってない。

それとか、冷麺で日本一の高校になりました。あと総務省事業で三菱UFJ賞、全国規模の賞をもらったとか全然知られていない。滋賀大学に合格したとか、そういうのも含めて届いていないです。

だから、いろんな媒体使ってやっているのですけれども、なかなか届かないという悩ましさがあるのですけれども、繰り返し繰り返し、あるいは口コミとかで、本当に地道な方法しかないのかなと思いながら、学校側も魅力・活躍が、届かない、伝わらないというところを苦慮されているみたいなんです。

ですので、明日、実は垂水高校で専門学科のフェスタがあるのです。

これに垂水中央中の2年生全員を巻き込んで、全員をつれて2校時から4校時までの時間割を使って70名に、ぜひ体験してもらおう、そういうのを計画しているところです。

100周年事業につきましても、よく情報共有しながら、実行委員会とうまく連携をとって、教育総務課の方で進めてくれております。

あと小学校の陸上記録会がございました。

一番良かったのは、雨が降らなかったことです。後からもう雨でしたが、雨を心配せずにできたというのが良かったです。

新記録は確かでなかったと思うのですけれども、とにかく子供たちが一生懸命頑張る、この姿は非常に良かったです。

一方で感じたのは、リレー競技です。

小さな学校がなかなか出にくい、あるいは出たとしても隣の学校と組んで参加したチームがありました。

男女でチームを組んだりとかを保護者あるいは地域の方がどう見るのかです。

先ほどの学校の在り方も含めてなののですけれども、確実に少子化が進んでいるなというのを、こういう行事を行う度に思います。

だけど、子供たちの頑張るという思いは、本当に体からにじみ出ていて、すごく思いが伝わる、いい記録会だったと思います。

また、なんと言っても運営面での小体連の先生方の絆とか、思いとか、

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	子供に力を発揮させたいという願いみたいなものが伝わってきて、ありがたかったです。それと教育委員会職員の協働力というのでしょうか、もう本当にみんなで頑張っていました。 最後に、市民文化祭です。 おかげさまで、2年連続、秋の産業祭に行けていないです。 朝から張り付いて午後の部まで観ました。しっかり観させてもらって、先ほど葛迫委員もおっしゃったとおり、すごくいい文化祭だなと年々思うようになりました。 何て言うのでしょうか、趣味がそんなふうにして継続に繋がって、そして高まっていく、それを演じる側はやっぱりみんなに見てもらいたいという気持ちがありますよね。 そうすると今度は受け止める側、観る側はやっぱりすばらしいなと思います。もう反応が素晴らしい。 とすると、そこに一体感とか、連帯感みたいなものが生まれます。 そのことを最後の講評でコメントしましたがけれども、一体感はやっぱり垂水独特なのかなと思います。 だから、垂水文化祭というのは、温かい空気が流れているのを感じます。 それと前日からの、いわゆる展示部の作品のレベルの高さ、私もずっと観て回ったのですが、口々におっしゃるのが、垂水は肝属の中で一番、展示関係もピカイチ、鹿屋よりも、あるいはもうちょっと言うと、曾於とかもあるのかもしれませんが、垂水の文化祭の展示品は一級品だというのはやっぱり言われます。レベルが高いということです。さすが文化のまちです。 ただ役員の方々を見てみると、どうしても高齢化が進んでいますので、後世にどうバトンタッチしていくのかというのが、大きな大きな課題だなと思っています。 まさに、この文化の灯を絶やすことなく、これからも大事にしていきたいイベントの一つということを感じた次第でございます。 また何と言っても、社会教育課を中心とした職員の動きのよさ、これはやっぱりすごいと思います。 先ほどの生徒がイベントや学校行事を通して成長していくとするならば、職員もそういう業務を通して成長していくのです。 私は職員には「気が付いた人が、気がついたところで、気づいた行動をとって欲しい」というコメントしたら、社会教育課長は「自分の与えられた役割プラスアルファを1つでいいからやって欲しい」ということを伝えていました。またそのような動きをしていました。 それが全体を見るとか、あるいは他の役員の人の仕事をちょっと手伝いに行かなければいけないとかいう気配りの方へ繋がっていくのかなという気がします。 職員の育成も含めて、今後また三課連携しながら取り組んで参りたいと思います。私の方からは以上でございます。 10月11日から11月11日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、11月12日から12月2日までの行事予定についてお知らせした。
-------------------------------------	--

教育長

あと、かごしま「教育の情報化」フォーラムというのが、10月30日にありました。

小学校から八幡小学校の児童が1人、中学校から垂水中央中学校の生徒会長、高校から大島高校の生徒の3人がテレビ会議システムを使って、登場して、GIGAスクールについてのディスカッションをしてくれたのですが、でも、「中央中ではどんな活動していますか」という質問に対して、生徒会長ということもあって、生徒会活動での活用として、例えばプレゼンを使ってわかりやすく生徒会の活動を説明するとか、生徒のアンケートをフォームで回収して、集約を簡単にできるとかということも言っていました。

あと、特色ある活動として、海外ウオン・シュー・チー中学校とのオンラインの交流も言っていました。

また「家庭生活だとか、学校生活の使い方として何か工夫していることありますか」という問いに対して、しっかりしているなと思ったのは、自分たちでルールを作って、例えば生徒手帳については、実物そのものではなく、タブレットの中に入っている。

そして子供たちが意見を交わしながら、リアルタイムでルールメイクできるということなど表情豊かに話をしました。

また今後の活用についての質問では、「学校行事だとか、あるいは授業について、学校に出てこれない生徒たちにも配信したい。」とすごくいい意見を述べていました。

この発想、素晴らしいじゃないですか、こういうことを含めて、さすが垂水の中学生というか、あちこちでお褒めの言葉をいただきました。

併せて、KYTで11月8日の業務改善の放送がありました。

私もあちこちからLINEをもらったり電話をもらったりしましたが、私はGIGAをこれからも子供たちのために続けていきたいと思っています。

6 閉 会